

を

を!いいな “トントンギコギコ” 子等元氣

Keyword : 造形遊び, 基礎基本, 技術指導

映画 「トントンギコギコ」 の動画を観て

野中 真理子 (2006年11月19日撮影)
東京都立野中高等学校
子ども美術教育科
野中 真理子

●授業の概要 / 図工や、図工の活動を行うにあたっての準備ができていないことに気づいた。自由を認める環境や授業の雰囲気に慣れ、2コマ先生のものと子どもたちのひたひたと活動していた。ビデオに出てきたようには準備ができていなかった。ビデオに出てきたようには準備ができていなかった。ビデオに出てきたようには準備ができていなかった。

●授業の概要 / 「トントンギコギコ」を見て、子どもたちは嬉しそうに楽しんでいた。自分の好きなように描いていく。自分の好きなように描いていく。自分の好きなように描いていく。

●授業の概要 / ビデオで取り上げられた授業の動画を観て、子どもたちは嬉しそうに楽しんでいた。自分の好きなように描いていく。自分の好きなように描いていく。自分の好きなように描いていく。

●授業の概要 / 図工の授業のDVDを見て、子どもの想像力の豊かさに驚かされた。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。

●授業の概要 / DVDを見て、先生の素材に興味を持った。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。

●授業の概要 / 先生(家庭科の先生)のビデオを見て、図工の授業の雰囲気に感銘を受けた。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。授業の雰囲気や先生の指導の仕方に感銘を受けた。

映画「トントンギコギコ図工の時間」は
お勧めです。その根拠は以下の学生のショ
ートショートメールレポートの記述です。

SK/DVDをみて、沢山の素材に困まれた
環境、マネごとではなく、常に本物に触れら
れる環境はとても素敵だなと思いました。ま
た、安全指導や、素材や作品の魅力につい
ての説明がしっかりなされていれば、授業中
にしっかりと指導したりする必要はなくなり
、それだけで授業は十分成り立つことに気が
きました。私の考えとしては、くぎは木など
を繋げる時に用いるものですが、内野先生
の授業では、錆びたり曲がったくぎを、繋
げるという目的ではなく、アートとして使
って、柔軟な発想はアートを次々と深めて
いくなど感じました。皆元(*^o^*)σ:お!釘
のごよく見極めたねッ!

MH/(略)自分が今までに見た小学校では
あり得ないほど図工に力が入っていると感
じました。児童が道具を幅広く使い、自分
だけの作品を作り上げる姿を見て、本当に
作ることが楽しんだと分かります。■卒業
製作の場面を見ると、私達の時は全員が同
じもの作りデザインだけ異なるものを作
っていました。しかしこの小学校の児童達
は全員が一枚の木の板が配られ、そこ
から自分で全て作り上げていくという
とても難しい課題でした。けれど
難しい課題と思っていたのは私だけ
らしく、全員が思い思いの作品を、工夫
し、技術を総動員して完成させました。
■全てをまかされるとするのは一見難
しそうですが、児童の好きな物
が好きなように作れる。本当に卒業
に向けての製作なんだと児童自身が
感じることができると、このビデオ
を見て気づきました。■図工の授業で
学習指導要領通りにだけやるのではなく
、教師が6年間児童に何を任せ、どん
な力をつけていきたいのか、本当に綿
密に計画していかなければ今日見たビ
デオの中の児童のように育たないと思
いました。皆元(*^o^*)σ:そうそう「教
師が6年間児童に何を任せ、どんな力
をつけていきたいのか、本当に綿密に計
画…」との君の指摘はホントに大切な
ことなんだよ。レジュの3D(カリ
キュラムのデザイン)にもつながるね!

*1 映画「トントンギコギコ図工の時間」、監督：野中 真理子、紀伊國屋書店、2006

HA / (略) 図工を通して、友達と協力し合ったり、アイデアを出し合ったりなど、人間関係が楽かれているということに驚いた。図工は1人で黙々と作品を作り上げていくイメージだったが、こんなにもコミュニケーションを取ることのできる教科であるということを知ることが出来た。私は将来、保育士になりたいと思っているが、子どもたちが小学生になるにあたって図工が苦手な子どもたちになってしまわないよう、自ら進んで楽しいと思える活動ができるような図工に繋がる遊びを展開できるような先生になりたいと感じた。【答元(*^◇^*)
σ:「自ら進んで楽しいと思える活動ができるような図工に繋がる遊びを展開できるような先生になりたいと感じた。」ってか！いいねえええ！

MH / 「トントンゴゴゴ」をみて、2年生で焼き物をしたり、3年生では釘打ちをしたり、5年生ではイスを作ったりして普通の小学校では難しいと考えられている学年でいろいろなことを行っているのが凄と思った。なぜ、可能なのかというと、安全指導が1人ひとりに行き渡っているからだと思った。1年生のころからC型クランプの使い方やのこぎりの使い方を教えており、どうして安全なのかを伝えることにより、子どもたちの理解も深まっていると思った。実際に子どもたちのやりたいように、作りたいものなどに合わせて使う材料も違えば、使う道具も変わってくるので、本当に子どもの作りたいものを製作するには、いろいろな道具の使い方などを早く教えておくことが大切だとビデオをみて、感じた。【答元(*^◇^*)
σ:だからと言って「作品」をつくらせるための技術指導が先行すると子どもたちはそっぽを向くからね〜〜！さあぁ！MH先生の腕の見せ所ですよ！

M1 / DVDを見て一番感じたことは、子どもたちの作品には、見た目だけではわからない子どもたちの様々な想いがつまっているなということです。「わたしのイス」を制作して完成した後、普通に鑑賞するのではなく、草むらの中だったり、運動場だったり、子どもたちがイスを置きたい場所に持って行き、一番見てほしい場所で鑑賞するという方法がとてもおもしろいと思いました。また、くぎ打ち練習の場面では、練習させるために何かを作る活動をするのではなく、あえて自由に沢山練習する時間、とすることで、子どもたちはほんとに自由に楽しんで沢山くぎをうっていました。このようにあえて自由に活動することで基礎・基本が形成されていくんだと勉強になりました。今までは、自然が多いところがいいなどの環境がとても大切だと考えていましたが、より良い環境は周りの大人が作っていくことができるのだと改めて感じました。また、元からある自然などどんなに良い環境があってもそれをどう活かして活動していくかが大切なのだと感じることができました。【答元(*^◇^*)
σ:君は「くぎ打ち練習」と言っているけど、あれは「練習」ではなく、あの活動そのものが美術(遊び)活動なんだよね。(略)それはそれとして、「元からある自然などどんなに良い環境があってもそれをどう活かして活動していくかが大切なのだと感じることができました。」との記述から事例を表層的に受け止めない(私からの提供資料〈映像等〉を安易にスルーしない)君の鋭敏な感性に脱帽ッ。

以上、ごく一部の学生のメールレポートですが、すべての学生のショートショートを印刷(プリント8枚程度)し、全員に配布することで、学びの共有化ができます。